

2021年1月26日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 高橋 伸彦



副査 奥村 一彦



副査 佐藤 惇



今般 柳瀬 舜佑氏 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目 歯周炎はアテロ-41生動脈硬化症の発症に影響し、  
+タマ×エキスはその抑制する。  
- アテロ-41生動脈硬化症モデルに及ぼす in vitro の研究 -
- 2 論文要旨 別添
- 3 学位論文審査の要旨 別添（様式第12号）
- 4 最終試験の要旨 別添（様式第13号）

以上の結果 柳瀬 舜佑氏 は博士（歯学）の学位を授与する資格のあるものと判定する。

## 学位論文審査の要旨

主査 高橋 伸彦



副査 奥村 一彦



副査 佐藤 惇



氏 名 柳 瀬 舜 佑

学位論文題目 歯周炎はアテローム性動脈硬化症の発症に影響し、ナタマメエキ스는それを抑制する： - アテローム性動脈硬化症モデルマウスおよび *in vitro* での研究 -

以下本文（15行目から1000字以内）

申請者は動脈硬化症発症モデルであるApoE欠損マウスについて、歯牙結紮および *P. gingivalis* 投与という2つの方法で歯周炎および大動脈における動脈硬化病変の発症を誘導し、その機序として炎症の関与を提示した。加えて、このモデルを用い、ナタマメエキスが歯周炎や動脈硬化病変の改善に有効であることを示し、さらに、その分子メカニズムの一端を *in vitro* モデルにて解明した。

論文の審査過程において、初稿の記載は不十分であったことから、以下の点について幾重わたる改訂を要した。1) 本研究の着想に至る学術的背景（緒言）や考察について：参考文献などを含め記載が不十分であった点、説明の流れにおいて論理的なつながりを欠いていた点などについて修正を要した。2) 手技に関する詳細：特に動脈硬化病変の評価に関しては、どのように大動脈を切り出し、評価を加えたのが非常に分かりにくかったため、誰もが理解できる記述とした。その過程で、初稿にはなかった大動脈の縦断面のdataも加えることとなった。また、定量的PCR法に関して、申請者の理解の程度を確認しながらその記載を適切なものへと修正した。3) その他、図の提示方法およびその説明、論文としてのフォーマットや日本語表現に関しても数多くの訂正を施した。

以上の改訂を経て、最終原稿は学位論文として要件を満たすものとなった。

最終試験（学力の確認）の要旨

主査 高橋 伸彦



副査 奥村 一彦



副査 佐藤 惇



氏 名 柳 瀬 舜 佑

以下本文（10行目から200字以内）

実験手技の原理・手順に関する口頭試問や、本人にのみに直接投げかけた統計手法に関する問いに対する回答には研究指導者の補助が必要であり、議論への積極性が足りない印象があった。この点は今後に期待したい。一方、論文作成自体は本人が努力して書いている状況が見受けられ、また、論文の改訂における質疑応答や論文題目改訂への関わりについては納得できるものであった。総合的に判断し、学位取得に関する学力は満たしているものと判断した。